

JAMトピックス

J A M
第 1 4 回
広 報 セ ミ ナ ー

目的を常に明確にして 広報は組合員とのパイプ役

2013年11月19日
編集：JAM本部

広報技術の向上をめざし、JAMの第14回広報セミナーが10月24日から26日の3日間、本部のある友愛会館で開かれた。参加者は地方JAM書記局の5人をはじめ9地方1大手労組から25人。講師は、朝日・毎日新聞の現役記者など5人。



<基本を忠実に実践することが大切>

セミナーは、①広報の基礎②文章・見出し教室③専門コースの3つのステップで行われ、広報の基礎では、①縦書き新聞の作り方・見出しのつけ方・レイアウトの仕方・横書きニュースの作り方、②文章の書き方、③写真の撮り方などについて受講。目的を明確にして、機関紙を発行する、取材する、写真を撮る、原稿を書く、レイアウトをすることを学んだ。



<ひとり一人丁寧に指導>

文章・見出し教室では、見出しは記事の内容を一言で表したものだ。言葉を絞って大胆につけること。文章では、取材する時は必ずメモを取ること。漢字を少なくすること、5W1Hなどの基本を踏まえて書くことなどを教わった。

縦書き新聞、文章の書き方、写真の撮り方の各専門コースでは、本部内や町に出た取材に取り組み、文章コースでは原稿を執筆し、講師の添削を受け、新聞の作り方では、B4版の紙面を作りあげ、写真コースでは、撮影してきた写真の講評を受けた。



<広報の必要性をとく真中会長>

途中、真中行雄会長も会場を訪れ参加者を激励。学校新聞の部長であったこと、単組で広報を担当していたことを紹介しながら、できるだけ漢字を使わないこと、分かり易く作ること一など広報のポイントを語り、「広報は組合と組合員をつなぐパイプ」だと強調。参加者の奮起を要請した。



<文章の書き方を学ぶ受講者>

指導した講師は次の通り。縦書き新聞＝亀山浩和（毎日新聞）。文章＝高木和男（朝日新聞）古森勲（元朝日新聞）小滝ちひろ（朝日新聞）。写真＝田沼洋一（写真家）。